

## ○ 授業動画に係る指導及び助言

～宮崎市立住吉小学校2年 主題名：してはいけないこと 教材名『わりこみ』～

宮崎県教育委員会義務教育課指導主事 西川 元

### 1 子どもが「考え」「議論する」ための指導方法の工夫について

#### 【発問の工夫】

- ・ 児童の思考を予想し、それに沿った発問の構成を心がけることで、ぼく（主人公）の善悪の判断についての迷いを確認することができていた。中心発問においても期待される発言を見ることができた。

#### 【板書の工夫】

- ・ 順次的、時系列的にまとめていくことで、低学年の児童にも分かりやすい板書になっていた。特に考えさせたい「いきむさんがぼくの前に入った場面」「ぼくの後ろに入ろうとしたうとした場面」を並べて示し、中心となる部分を浮き立たせるなどの工夫をしていた。

#### 【役割演技の工夫】

- ・ 活動の目的やねらいの達成の見通しをもち、場面設定をしっかりと行い、児童が伸び伸びと表現できるよう配慮していた。ぼくやいきむさんになり、考えを表出することで、ぼくの気持ちに迫ることができていた。

### 2 ねらいに関する児童（生徒）の姿について

- ・ タブレットで意識調査の結果を示したことで、本時の内容項目に方向付けができた。また、教材を読む際にも、わりこみをしたいいきむさんに対し「えっ」という児童の反応があり、本時の内容項目について関心を高めることができていた。
- ・ 振り返りにおいて、自分がよいと思える行動ができた際、よい気持ちになるという振り返りができている児童もおり、ねらいとする姿を見ることができた。

### 3 指導及び助言

- ・ 焦点化を図るに当たって、「友だちに注意できなくていいのかな」とテーマの設定を行ったが、誠実、規則、公正公平など様々な内容項目からの回答が予想される。「よいことを進んで行うためにはどんな気持ちが必要かな」とすることで「よいこと悪いことを考える」「みんなのことを考える」「そうすることで気持ちもよい」といった本時に触れたい道徳的価値に迫ることができたのではないかと考える。
- ・ 教材を途中で切ったことで、本時の内容項目について関心を高めることはできたが、「よい」「わるい」の話に終始し、よいと思える行動ができた際の気持ちについて触れる時間が短くなってしまった。全て読むことで、よいことをすることの喜びにより着目し、深めることができたのではないかと考える。
- ・ 本時を振り返る際、「どんなことが分かったか」と発問を行ったが、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、実現することのよさや難しさなどを考えさせたりするためには、指導案どおりの「今日考えたことは」という発問がよかったと考える。